

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（白老地域）

項目		平成20年度事業実施計画	平成20年度事業での方向性等	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等
空間形成	推進体制	○アイヌの人々が中心となって、ウタリ協会白老支部、（財）アイヌ民族博物館、白老町等の関係者と連携し、白老イオル事務所を核に管理運営、保育管理、活用管理などの教育（学習）型イオルとして各種事業の円滑に推進	・しらおいイオル事務所チキサニを中心に、支部、博物館、役場等の関係機関が一体となった組織の設立を検討する。 ・地域における事業は、事業の内容に応じ、適切な団体等に委託し、実施する。	・平成18年度、19年度植栽箇所等の管理（巡視）、除草、試験栽培（森野地区）について、白老アイヌ民族博物館に委託し、実施した。 ・樹木や植物の植栽について、学芸員等の協力を得て、実施した。	・しらおいイオル事務所チキサニを中心に、支部、博物館、役場等の関係機関が一体となった組織の設立を検討する。 ・地域における事業は、事業の内容に応じ、適切な団体等に委託し、実施する。
	植栽	○平成18・19年度に植栽した陣屋地区、ポロト自然休養林地区及びポロト地区（試験栽培地区から植栽地区に変更）の維持管理等を実施 ○ポロト自然休養林地区については、森林管理署との協定に基づき「森づくりの体験学習」等の活動計画を策定し実施 ○各地区において、保育観察・定期巡視を実施し状況を把握するとともに、必要に応じて除草作業、草刈作業、また、見学者等の安全確保のため工作物の保守管理を実施 ・保育観察・定期巡視業務 ・除草作業、草刈作業、工作物管理作業等	・ポロト自然休養林地区については、「イオルの森づくり活動に関する協定」の枠組みの中で、平成18年度に植栽した自然素材の維持管理を行い、体験交流事業や伝承者育成事業等の活動に活用する。 ・ヨコスト地区については、植栽地区から試験栽培地区に枠組みを変更する。	・ポロト自然休養林地区については、平成18年度に植栽した自然素材の維持管理として草刈、シカの食害対策等を行った。冬には町内児童等を対象にテシマ（かんじぎ）歩行体験で樹木の観察等を実施した。 ・ポロト地区については、樹木等の活着状況は良好であり、高齢者や保育園児の散歩等、町民の憩いの場として利用されている。 ・陣屋地区については、生育状況は良好であるが、ゴザ編み材料として利用するためには細すぎるものが多く、2～3年の期間を要する。 ・ヨコスト地区について、植栽地区から試験栽培地区に枠組みを変更した。	・ポロト自然休養林地区については、林野庁の制度（イオルの森づくり活動に関する協定）の枠組みの中で、平成18年度に植栽した自然素材の維持管理を行い、体験交流事業や伝承者育成事業等の活動に引き続き活用する。 ・ポロト地区については、アイヌ文化の伝承に必要な自然素材の普及の場、高齢者や保育園児の散歩等、町民の憩いの場として利用に資する。 ・陣屋地区については、引き続き、生育状況の観察、維持管理を図る。
	試験栽培	○森野地区での試験栽培を引き続き実施するとともに、ヨコスト地区で海浜植物の試験栽培を実施し、将来的な採取及び採捕の空間整備を図る。 ○試験栽培により、穀物、苗木、有用植物、海浜植物の生育状況を記録するとともに、作業や収穫物を伝承者育成事業、体験交流事業等に活用 ・穀物（アワ、ヒエ、キビ）及び苗木の試験栽培の実施、収穫物を伝承者育成事業・体験交流事業に活用。（森野地区） ・苗木の成長記録・種子の採取、苗木の移植、有用・薬用植物の試験栽培（森野地区） ・海浜植物の試験栽培（ヨコスト地区） ・各地区の保育観察、定期巡視	・森野地区、ヨコスト地区において、試験栽培を実施する。 ・収穫物を伝承者育成事業、体験交流事業で活用するほか、他地域の伝承活動へ提供する。	・森野地区において穀物（アワ57.7kg、ヒエ16.5kg、キビ1.0kg）、苗木、有用・薬用植物の試験栽培を実施した。 ・ヨコスト地区において、海浜植物の試験栽培を実施したところ、種子からの生育が良好。 ・収穫した穀物はウタリ協会白老支部の伝承料理教室、アイヌ文化フェスティバル、体験交流事業において活用した。	・森野地区、ヨコスト地区において、試験栽培を実施する。 ・収穫物を伝承者育成事業、体験交流事業で活用するほか、他地域の伝承活動で活用する。
空間整備	○ポロト湖畔地区において、アイヌの人々の自然観に根ざした工芸技術等の伝承活動の場や自然と共生していたアイヌの人々の知恵を学習するため、長老等の意見や調査研究に裏付けられたチセを復元し、イオル空間としてのコタンの再生等を実施 ・コタン再現等のイオル空間整備方針の策定 ・チセ等の復元	・白老地区土地利用計画を参考に、効果的な事業が実施できるコタンの再現に向けて、調査検討、設計、整備を実施する。	・かつての白老地域の海辺のコタンの再現に向けて、考証に基づいたチセ等の復元及びチセ等の適正な安全管理のためチセ周辺の樹木の移植などの環境整備を行った。	・チセ周辺にかつての生活環境の再現等の環境整備を行う。	

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（白老地域）

項目	平成20年度事業実施計画	平成20年度事業での方向性等	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等
調査研究	○ハマボウフウ等の海浜植物について、植栽事業及び試験栽培事業によって、アイヌの人々が伝統的文化活動を行う際に必要となる量の確保 ○白老地域海岸部における海浜植物の植生状況等調査を実施	・試験栽培している苗木の素材供給ゾーンへの移植を調査、検討する。	・白老町内の海岸において、海浜植物の現存量や植生環境等について、調査を行った。 ・ハマボウフウ等の海浜植物の点在を確認したが、砂浜の侵食や砂浜への車輛の乗り入れ等により環境は劣悪であった。	・調査結果は、ヨコスト地区の試験栽培に反映させるとともに、既存の海浜植物の保護を早急に検討する。
空間活用	体験交流指導者育成	・体験交流事業において平成19年度に養成した指導者の活用を図るとともに、引き続き養成事業を実施する。 ・また、ライブラリーを活用する仕組みの構築について検討する。	・体験交流事業の指導者の育成事業を実施した。…受講者：北海道ウタリ協会白老支部会員他20名 ・ライブラリーの活用については、引き続き検討する。	・体験交流事業を活用し、体験交流事業の指導者を育成事業を実施する。 ・ライブラリーを活用する仕組みの構築について、検討する。
	体験交流	○地元関係機関による白老イオル体験交流事業推進協議会が主体となって、地域内の各種事業と連携を図りながら、体験交流指導者育成事業の受講者をリーダーとしたイオル空間を活用した各種体験交流事業を実施 ・アイヌ民族の漁文化と自然との関わり方学習事業 ・川のイオル体験交流事業 ・山のイオル宿泊体験交流事業 ・アイヌ文化の体験、体感交流事業	・白老イオル体験交流事業推進協議会が主体となって、海、山、川の体験交流事業を実施した。 ・しらおいイオル事務所「チキサニ」において、小学生を対象に、ミニ体験学習事業を実施した。	・白老イオル体験交流事業推進協議会が小学生等を対象とした体験交流事業を実施する。 ・体験交流指導者育成受講者、伝承者育成事業受講者を活用し、実践活動に取り組みさせる。
管理運営	白老イオル事務所運営	○教育（学習）型イオル事業運営の拠点として、アイヌの人々が主体的に空間の管理運営を行う ○アイヌの人々や広く一般に対して、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用	・しらおいイオル事務所チキサニを中心に、支部、博物館、役場等の関係機関が一体となった組織の設立を検討する。	・しらおいイオル事務所チキサニにおいて、イオル事業の普及啓発を図った。…利用者数：約2,000名（H20.5月～21.2月）
	管理運営	○白老地域のイオル再生事業全体について、総合的に管理運営するため、地域の実施計画のとりまとめや関係機関との連絡調整を図る。 ・事業実施における全体的な進捗状況の管理及び事業実施機関への適切な指導・助言等 ・事業運営に当たった地域の関係機関・団体との連絡調整等 ・空間の活用を含む自然素材の管理育成 ・自然素材採取地区の管理運営	・平成19年度調査済区域において、「採取及び植栽に関する要綱」に基づき、採取・植栽を実施する。…A-2地区（竹浦防風林地区）、A-4地区（石山牧場地区）	・イオル事務所チキサニと設立した一般社団法人白老モシリ（4月発足）を中心に（財）アイヌ民族博物館、役場等と連携を図りながら管理運営を図る。

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（白老地域）

項目	平成20年度事業実施計画	平成20年度事業での方向性等	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等
<p>空間の管理運営</p> <p>その他（目指す姿）</p>	<p>○ポロト湖畔周辺を植栽空間や自然素材採取空間と結び核とするほか各種事業や活動拠点となる空間としても位置付けて、これまで白老地域が培ってきたアイヌ文化に関する知識や経験とあわせて、実践的な活動を通じた伝承者の育成や、アイヌ文化の体験を通じた普及啓発活動を行う、「教育（学習）型」イオルを指向</p> <p>○ポロト湖畔にコタンを再現する取組をさらに進めるとともに、管理運営体制を充実させ、イオル事務所を中心とした情報の集積・実践活動の支援等を円滑に進められる体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然空間においては、地域のアイヌの人々が中心となって伝承活動を実施 ・ポロト湖畔周辺空間において、博物館と連携を図り、伝承活動や体験交流事業を実施 ・植栽物とともに、将来に向かってアイヌ文化を護り継ぐ。 		<p>○教育（学習）型イオルとして、ポロト湖畔地区に白老イオル事務所チキサニを開設し、イオル事業の紹介やアイヌ文化の啓蒙・啓発を行うとともに、ウタリ協会白老支部会員によるアイヌ伝統文化である「サケの皮、鹿の皮」で靴の製作や保存食作りなどアイヌ文化の伝承活動を積極的に取り組んでいる。同時に町内児童へミニ体験と称し、アイヌ伝統文化の体験を実施</p> <p>○ポロトコタンの再現については、考証に基づいたチセを復元した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育（学習）型」イオルを指向 ・ポロト湖畔にコタンを再現する取組をさらに進めるとともに、管理運営体制を充実させ、イオル事務所を中心とした情報の集積・実践活動の支援等を円滑に進められる体制づくり ・次年度以降はコタン集落を形成し、歴史的臨場感を再現した普及啓発を行う。 ・自然空間においては、地域のアイヌの人々が中心となって伝承活動を実施 ・ポロト湖畔周辺空間において、博物館と連携を図り、伝承活動や体験交流事業を実施 ・植栽物とともに、将来に向かってアイヌ文化を護り継ぐ。 ・自然素材育成については、伝承活動に使用できるようになるには、長い年月がかかりが、自然素材の育成を通じてアイヌ民族の精神文化や自然の役割、大切さを国民に普及する。

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（平取地域）

項目	平成20年度事業実施計画	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等
推進体制	<p>○平取町、関係機関やアイヌ文化伝承活動実践団体の代表者等を構成員とする沙流川流域イオル構想平取町推進協議会が、平取地域のイオル事業の円滑に推進</p> <p>○協議会のもと、検討部会等での検討・協議を経て、アイヌの人々の意見を反映するイオルの森の設定とコタンの形成に必要な平取町内の町有地等の円滑な利用等により、設定した空間の維持管理、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川流域イオル構想平取町推進協議会による合意形成を図りながら、平取地域のイオル事業の推進を図った。 ・協議会のもと、検討部会等において、アイヌ文化伝承活動実践団体の関係者の意見を反映させ、イオルの森の設定の検討、コタンの再現の検討、水辺空間の再生の検討、推進を図った。また、平取町内の町有地等の円滑な利用ができるよう協議を進め、設定した空間の維持管理計画なども各関係機関と協議し、推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川流域イオル構想平取町推進協議会による合意形成を図りながら、引き続き平取地域のイオル事業の推進を図る。 ・協議会のもと、検討部会等において、アイヌ文化伝承活動実践団体の関係者の意見を十分に反映させ、イオルの森や水辺空間等を活用して植栽・試験栽培を行うとともに、コタンの再現に向け推進を図る。また、平取町内の町有地等の円滑な利用ができるよう協議を進め、空間の維持管理計画、運営を図り、事業の推進を図る。
空間の設定	<p>○広大なイオルの森（イオル型複層林）の形成をめざして、二風谷地区の町有林と本町地区の河川敷地（国管理）をイオルの森として設定</p> <p>○良好な状態で維持管理するためのイオルの森管理事務所の設置と運営に関する検討</p> <p>○伝統的な文化活動を実践する上で必要な自然素材の現状を把握するため、自然素材の現存量等調査を実施して、循環利用を可能とする育林等方針を策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イオルの森予定地の現況調査を実施し、自然素材等の育成方針を検討 ・この現況調査は、東大北海道演習林の技術支援を得て、自然素材の現存量の把握を図るとともに、自然素材の育成、保全、採取（利用）の循環するシステムが構築できるようイオルの森管理運営等計画（仮称）にも反映させ、推進 ・イオルの森管理運営等計画（仮称）の案に沿って、町のイオルの森条例（仮称）の制定に向け、町議会及び町民への理解を図るための協議を推進 ・本町地区の河川敷地を水辺空間の再生地として検討し、空間を設定 ・イオル管理運営事務所は、町所有施設を借受けし、イオル事業の運営管理を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き自然素材の育成、保全、採取（利用）の循環するシステムが構築できるようイオルの森管理運営等計画（仮称）にも反映させ、推進する。 ・町のイオルの森条例（仮称）の制定に向け、町議会及び町民への理解を図るための協議を引き続き推進する。
空間形成	<p>○伝統的な文化活動に有用な自然素材（草本・木本）を植栽することにより、イオル型複層林の誘導手法を確立</p> <p>○植栽予定樹種を苗畑で試験栽培し、栽培技術を確立</p> <p>○イオル型複層林の試験地に直接植林及び播種し、成長経過を観察しながら、試験栽培と比較対比のうえ、育林技術を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沙流川流域の国有林・町有林で稚樹等の選定と根切り ・二風谷地区の町有地に苗畑を造成 ・採種と播種 ・移植・実生苗の養苗、害獣対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化伝承活動に有用な自然素材（草本、木本）を選定した。 ・稚樹等を二風谷地区町有地の苗畑（植栽試験地）へ移植し、害獣対策を施した。また、町有林等から採取した種を育苗箱に播種し、苗畑に設置するとともに、成長経過も観察できるよう維持管理している。 ・水辺空間については、土地利用計画の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イオルの森管理運営等計画（仮称）に定めた計画に基づき、計画的に施業に着手する。 ・20年度に苗畑に移植した稚樹の育成管理、播種した苗の育苗管理を行うとともに、新たに稚樹の移植、養苗を継続的に行う。 ・水辺空間では、水辺整備方針を基にカヤやガマ等を試験栽培し、育成技術の確立を推進する。

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（平取地域）

項目	平成20年度事業実施計画	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等
空間整備 （コタンの再現）	<p>○ウタリ協会平取支部等が主体となって、伝承者と専門家の協力を得てチセの復元図を作成し、イオルの森から必要となる自然素材を採取・加工・利用し復元</p> <p>○工程の折々には伝統儀礼（カムイノミなど）を実践し、伝承活動の一環とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復元地（建設地）の選定と復元図の作成 ・チセ資材の選木・伐採・搬出 ・チセの復元 ・一連の工程と伝統儀礼の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウタリ協会平取支部等が主体となり、伝承者と専門家の協力を得て、ポロチセの復元図を作成した。 ・イオルの森等から必要な自然素材を採取・加工・利用し、伝承活動の一環として、ポロチセの復元を図った。 ・工程の折々には伝統儀礼（カムイノミなど）を実践した。 ・一連の工程と伝統儀礼の記録は、次年度以降に有効活用できるよう電子データにより記録し、保存した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウタリ協会平取支部等が主体となり、伝承者と専門家の協力を得てポロチセの復元図を作成する。 ・イオルの森等から必要となる自然素材を採取・加工・利用 ・工程の折々には伝統儀礼（カムイノミなど）を実践し、伝承活動の一環とする。 ・コタンの再現方針に基づく基盤整備及び復元したポロチセにおいて伝承活動の実践を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・コタンの再現と運営管理 ・チセ等の復元 ・コタン周辺の「伝承の場」としての整備
管理運営事業	<p>○平取地域のイオル事業全体について、総合的に運営管理するため、沙流川流域イオル構想平取町推進協議会（事務局）が地域の計画のとりまとめや関係機関との連携調整を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川流域イオル構想平取町推進協議会（事務局）が地域の計画のとりまとめや関係機関との連携調整を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き沙流川流域イオル構想平取町推進協議会（事務局）が地域の計画のとりまとめや関係機関との連携調整を図る。
空間の管理運営 その他	<p>○沙流川流域の豊かな自然の中で、多くのアイヌの人々が行っている生活に密着した伝統文化活動を支援するため、広大なイオル空間を設定し、自然素材の採取の場となるイオル型複層林の再生や生活文化の中心であったコタンの再現などを行い、即時利用が可能な自然素材を活用した活動の深化（進化）をめざす「活動型イオル」を指向</p> <p>○自然素材や資源の持続的確保を可能とするイオルの森の形成のための試験栽培を行い、コタンやイオルの森づくりをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然素材の持続的な採取等を可能とするイオル型複層林の形成及びコタンやイオルの森づくり ・イオルの森の拠点となるコタンでの伝承活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・沙流川流域イオル構想平取町推進協議会では、多くのアイヌの人々が行っている生活に密着した伝統文化活動を支援するため、広大なイオル空間を設定した。また、自然素材の採取の場となるイオルの森や水辺空間を設定し、生活文化の中心であったコタンの再現として、ポロチセ復元などを行った。即時利用が可能な自然素材の育成技術の確立のため、森林や河川敷地の現況調査等を行い、次年度以降の活動型イオルの実践に向けた基礎を確立した。 ・自然素材や資源の持続的確保を可能とするイオルの森と水辺空間の形成のための稚樹等の試験栽培を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動型イオル」を指向 ・自然素材や資源の持続的確保を可能とするイオルの森と水辺空間の形成のための試験栽培を行い、コタンやイオル空間等の伝承基盤づくりと体験交流活動を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然素材の持続的な採取等を可能とするイオルの森と水辺空間の形成及びコタンの再現 ・生活文化の拠点となるコタンでの伝承活動の実践 ・アイヌ文化の体験交流活動の実施

平成20年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況（連携事業その他）

項目	平成20年度事業実施計画	平成20年度事業での方向性等	平成20年度事業実施（検証）	平成21年度以降の方向性等	
連携促進事業その他の取り組み	ライブラリー（電子情報システム）の充実	○各地域の伝統文化及び伝承者、活動団体の情報やコタンを中心に点在するアイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観などの現況や実態を調査し、その結果をデータベース化し、伝承活動等に活用できるライブラリー（電子情報システム）の充実を図る。 ・伝承者、活動団体の活動状況等の情報の収集、整理 ・アイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観等の現況等の把握、整理	・集積した情報をアイヌ文化の実践的な伝承活動等に活用する。	○平取地域アイヌの伝統文化に関する文献情報（200件）及び伝承者、活動団体の情報（100件）を調査し、その結果をデータベース化し、伝承活動等に活用できるライブラリー（電子情報システム）の充実を図った。 ○白老地域アイヌの伝統文化に関する文献情報（140件）を整理・追加し、データベース化した。	・両地域のアイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観等の現況等の把握、整理を行う。
	伝承者育成	○熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けたアイヌ文化の伝承者の育成を図る。		・アイヌ民族、文化に関する総合的な知識、教養を身に付けるとともに、技術の伝承に努めている。 ・実施（財）アイヌ民族博物館 ・受講者8名（男2名、女6名 年代：20代3名、30代2名、40代2名、50代1名 地域：浦河、帯広、札幌、白老、登別、美幌、平取、千葉各1名） ・受講日数160日（8月5日開講） ・内容 衣、食、住、工芸、儀礼、言語等の講義、実習	平成20年度から22年度までの3ヶ年を1期として実施するため、21年度についても継続実施
	ネットワークのあり方に関する調査	○地域間の連携促進（ネットワーク形成）のため、事業実施地域間の情報交換、事業実施地域以外への情報提供を実施し、各地域の現状や課題について、聞き取り及び現地調査等を行うことにより、各地域の特性を分析 ・白老地域、平取地域でのネットワーク会議開催（年2回） ・伝承者を始めとする人材交流 ・アイヌ文化に関する情報の共有による各地域の特性の分析 ・諸規制、規制緩和等に関する調査、検討	・イオルネットワーク会議において、現状と課題について情報収集・意見交換を行うとともに、具体的な検討を進める。	・イオルネットワーク会議において、現状と課題について情報収集・意見交換	22年度までに各地域の特性を分析するとともに事業実施地域の検証及び評価を行う。また、カヤ・ガマの調査を含め、今後の伝承活動に利用できるよう規制緩和等を含めた検討を行う。
その他	○水産動物の採捕や鳥獣等の捕獲、国有林野内での植栽、河川区域内の行為などに関する規制緩和や許可に関し、事業の実績やアイヌの人々の意向等を踏まえつつ、有効な措置等についての検討 ○アイヌ文化振興財団が実施する他の事業のほか、関連する事業等の活用	・規制緩和については、実現までには時日を要することが予想される事柄であることから、継続的な検討が必要である。	・事業実施地域の国有林の利用について、北海道森林管理局と協議したが合意に至っていない。	・北海道管理局との協議を含めて継続的な検討を行う。	